

2022年度 全国学力・学習状況調査の結果から見た南っ子のすがた

坂井市立三国南小学校

2022年度全国学力・学習状況調査における三国南小学校の児童の概要をお知らせします。学校では、今回の結果をもとに教育活動の工夫・改善をしていきたいと思ひます。ご家庭におかれましても、分析結果を参考にさせていただき、お子様のさらなる成長を目指して、生活習慣や学習習慣の改善にお役立てください。よろしくお願ひします。

1 教科に関する調査結果と分析

教科		国 語										
分類と区分		学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識及び技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
	全体	言葉	情報	言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと					
本校と全国平均との比較	○	○	△	○	○	○	△	○		△	○	○
教科		算 数										
分類		学習指導要領の内容					評価の観点		問題形式			
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識及び技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	
	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用						
本校と全国平均との比較	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	
教科		理 科									全国平均との比較	
分類		学習指導要領の内容				評価の観点		問題形式			○…上回っている	
		エネルギー	粒子	生命	地球	知識及び技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	印無し…ほぼ同等	
	全体	エネルギー	粒子	生命	地球							
本校と全国平均との比較		△			△	△		△	○	○	△…下回っている	

●全体の概要

国語は全国平均と比べて若干ですが上まわっており、良好といえます。また、算数も、全国平均よりやや上回っています。理科は、全国平均とはほぼ同等でした。

学習指導要領の内容の領域別に見ると、国語では「書くこと」、算数では「図形」「変化と関係」の領域が良好でした。一方、理科は課題が多く、「粒子を柱とする領域」と「生命を柱とする領域」のみが全国平均とほぼ同等という結果でした。また、国語では、「読むこと」に、算数では「データの活用」に特に課題が見られました。

問題形式では、どの教科でも「記述式」は全国平均よりもかなり上回っていましたが、国語や理科では、「選択式」の問題の正答率が全国を下回っていたことから、知識・理解の定着に課題があると考えられます。

<p>国語</p> <p>◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える力が優れています。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>◎漢字を文の中で正しく使う力が優れています。(知識及び技能)</p> <p>▲話合いの場面で、話し言葉と書き言葉との違いを理解したり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えたりする力に課題が見られました。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えたり表現の効果を考えたりすることに課題が見られました。(思考力・判断力・表現力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に合わせて文章を書いていく学習に加えて、他者の書いた文章と読み比べることで良さに気付くことが出来るようにしています。 ・毎月のパワーアップテストを通して、新出漢字の定着を図っています。 ・話合いのモデルをデジタル教科書の動画で視聴することで、話合いの場면을想像しやすいようにします。また、生活に結びついた話題をテーマとし、話合いの中心が何であるか明らかにしながら進めていきます。 ・登場人物の心情を想像することができるように、低学年では動作化やペープサートを用います。中学年・高学年では、心情がどのような叙述で描かれているかということに着目して物語の学習を進めていきます。
<p>算数</p> <p>◎百分率で表された割合を分数で表したり、基準量から比較量を求めたりする問題、また、プログラミングの問題では、辺の長さや角の大きさに着目し、菱形を書くことができるプログラムを選んだり、示されたプログラムで描くことができる図形を選んだりする問題の正答率は、県、福井県平均よりもかなり上回りました。</p> <p>▲データの活用を問う問題では、表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当てはまる数を求める問題と、分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ問題に課題が見られました。</p> <p>▲プログラミングの問題では、図形を構成する要素に着目して、長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く問題に課題が見られました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの問題も、教科書の中で扱われているタイプの問題であり、児童は日頃の学習内容をしっかり理解していることが分かりました。 ・それに対して、本校児童の苦手な問題は、教科書の問題を超え、生活経験の中で問われている問題だと言えます。そこで、授業で学んだことを生活の中で生かしていく体験が大切だと考えます。普段何気なく見ている事象を算数的思考で考える経験が有効であると考えます。また、一つの単元の学習が終わったときに、その学習内容を問う過去の学力テストなどの問題に日頃から取り組んでいくことも有効であると考えます。 ・問題形式をみると、長文で問われている問題に課題が見られる傾向がありました。読解力や語彙力をもっと付けていく必要があります。これらは、算数科だけでなく、国語科を中心とした教科を超えた取り組みが必要です。例えば、「希望が通る」など、児童があまり使わないような言葉も普段から意識して教師が使うようにするなど、たくさんの語彙に子供達が触れられるようにしておくことが大切だと考えます。また、低学年から、算数用語を使って考えを説明するなど、数学的表現をしていくことも大切だと考えます。
<p>理科</p> <p>◎問題や結果から、考察やまとめを考える力が優れています。</p> <p>▲様々な記録から、問題解決に必要な部分を適切に読み取ることに課題がみられました。</p> <p>▲実験における「問題」や「予想」に対応する「結果」や「考察」がたくさんある場合には、正しいものを選択することに課題がみられました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題→予想→結果→まとめのサイクルで学習を行うようにしています。 ・観察を行う際には、どのような視点で記録を書くと良いかを明確にして学習を進めます。 ・実験や観察を行う際には、立てた予想に対してなぜそう考えたかを説明し合うとともに、結果と比較して考え、児童同士が説明したり、質問したりする時間を設けます。

2 生活習慣や学習状況等に関する調査結果と分析

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査も併せて行われました。福井新聞(2022・7・29)には、「同級生と話し合う活動を通じて考えを深めることができるか」の問いに対し本県の児童は全国平均を上回り、県教委は「学習指導要領が求める『主体的・対話的な学び』が浸透している」、また、「やると決めたことはやり遂げるか」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦するか」の質問でも、全国平均を上回り、「福井県の子どもたちの粘り強さを示す」結果としているとの記載がありました。

○学校での学習の様子について

県平均、全国平均共に大きく上回っている項目は以下の通りです。

- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた。」
- ・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」
- ・「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。」
- ・「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた。」

以上の項目から、本校でも『主体的で対話的な学び』が浸透しており、日々の授業で、新しい学習指導要領が求める学びがしっかり行われていることが窺えます。

また、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができていますか。」の質問に「当てはまる」と回答した児童も福井県平均、全国平均を大きく上回っています。本校は、対話的な学習を通して一人一人が考えを深め、その考えを自分なりに表現する学びがしっかり行われていると言えます。

しかしながら、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」や「学校で授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか」の質問に対しては、県平均、全国平均よりも低いという結果でした。本年度は、どの学年もさらにICT機器を利用して学習効果を高める研究を行っており、ICT機器を活用した授業のさらなる充実が期待されます。

○家庭での様子について

本校児童は、「新聞を毎日読んでいる」の質問に対して、県平均、全国平均を上回っています。学校でもよくe刊を使ってNIEを実施していることで、新聞に興味・関心をもっている児童が多いことが窺えます。

しかし、家庭で「平日3時間以上ゲームをしている」、「2時間以上ゲームをしている」と回答した児童や「平日2時間以上SNSや動画視聴をしている」と回答した児童が多く、本校児童のゲームや動画視聴等をする時間の長さが気にかかります。

ゲームやスマホ利用の時間が長いと、学習面だけでなく健康面においても悪い影響が出てくるのが懸念されます。ゲームや動画視聴等の時間などの約束であるスマートルールを再度見直したり、約束をしっかり守るようにしたりといった、各ご家庭での取り組みが大切であると考えます。

○生活習慣や自分自身に関わることについて

本校児童は、ほとんどの児童が同じ時刻に起床・就寝し、朝ごはんもきちんと食べて登校してきています。「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的な生活習慣は、活動意欲・学習意欲にもつながります。

また、「学校へ行くのが楽しい」と肯定的に回答したが多く、県平均・全国平均共に上回っています。また、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「自分で決めたことは、やり遂げるようにしている」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と答えた児童の割合も、県平均や全国平均を上回っています。将来の夢や目標をもち、様々なことにチャレンジし、困難なことにも粘り強く取り組みながら、明るく健全に成長している姿が見られます。

今後も、学校生活の中で、自分の良さを認め、自己肯定感や自己有用感が高まるような取り組みを継続し、良好な人間関係をさらに育んでいくことで、「学校が楽しい」とすべての児童が感じられるように努めていきます。